

授業作り	重点	タブレット端末を有効活用し、基礎・基本の定着に取り組む。 思考力・判断力・表現力等を伸ばす授業展開の工夫改善を行う。
環境作り		教職員によるきめ細かい見取りを行い、生徒の健全育成を推進する。 日常的な協働活動を通して、自分を磨き、仲間とともに伸びる善意の集団を育成する。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は、「知識・技能」において、漢字や語句などの既習事項を状況に応じて的確に活用する力が必要である。 第2学年は、「思考・判断・表現」において、文章中から筆者の主張を読み取る力、設問の意図を正しく理解する力が、読解問題を解くにあたりさらに必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は自分の言葉で簡潔に書く力を伸ばすため、短い作文に取り組む活動から始め、都立高校入試を見据えて200字作文などにも定期的に取り組ませていく。 第2学年は漢字や文法の小テスト、暗唱テストを行うとともに、読書活動や情報収集活動を設定し、文章から読み取った内容を精査して自分の言葉でまとめる練習を積み重ねていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストの定期的な実施 小作文 フラッシュカード デジタルドリル
数学	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は「知識・技能」において、学習から時間の経った単元での定着が弱い傾向にある。 第2学年は「思考・判断・表現」において、論理立てて文章を構成する問題において正答率が低い傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は、単元間の結びつきを意識した授業を行うと共に、既習事項の定着を図るために小テストや用語の確認を反復的に行う。 第3学年は、計算問題以外にも単元内で定理の証明や自分の言葉で説明する場面を織り交ぜた学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な小テストの実施 デジタルドリルを活用した復習 グループワークでの協働学習 プリントによる反復練習
理科	<ul style="list-style-type: none"> 第2学年では、生物以外のすべての単元で基礎学力の定着が弱い。特に化学分野でその傾向が著しい。 第3学年では、生物、地学の単元では全国や新宿区の平均正答率を上回っているものの、化学、物理の単元ではやや下回る結果となった。また、思考力・ 	<ul style="list-style-type: none"> 既習分野の知識理解を定着させるために平素の授業での知識のつながりに重点を置く。 観察・実験に意欲的に取り組ませる指導を継続する。 生徒との対話を重視し関心を高める。 個別最適化のため、パワーポイントでのまとめやチームスの課題機能の活用を昨年より増加させる。 	<p><第2学年></p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の授業での対話による既習分野の振り返り デジタルドリル 復習テスト <p><第3学年></p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルドリル 化学、物理分野の授業における既習分野の振り返り

	判断力・表現力は一定の水準にあるが、知識・技能がやや劣る結果となった。		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年は、活動型授業や発表活動に関しては、大きく成長を遂げた。しかし、学習習慣と基礎学力の定着が不十分である。また、思考力、判断力を問う問題を不得手とする生徒が多くみられる。 ・第3学年は、基礎学力は徐々に身に付いてきたが、思考力・判断力・表現力を問う問題や記述問題などでは苦手意識が見られる。また、発表活動もあまり得意ではない生徒が多くみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルやワークを活用して授業や家庭学習において反復指導を行ったことで、学力の定着がみられたことから、今後も継続する。 ・活動型授業のなかで、調査→思考→発表というプロセスの中で基礎的知識の定着がみられた。今年度も継続する。 ・講義型授業の中で、基礎事項を身に付けた上で、歴史的事象や自らの考えをまとめて記述する時間を設けることで、思考力・判断力・表現力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項の徹底 ・デジタルドリル ・ワークシートの工夫 ・机間指導の充実 ・活動型授業を行う中での発表活動
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年は、全体的に区や国の平均より上回っているが、A層とD層との差が大きいことが課題である。 ・第2学年も、区や国平均は上回っているが、「応用」または「思考力・判断力・表現力」の定着が不十分である。基礎の定着はもちろんのこと、「思考力・判断力・表現力」を意識した授業作りをしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年は、受験に備えて、特に「読解力」と「スピーキング力」の向上を目標にしていきたい。また、基礎基本の定着のために「単元テスト」なども行っていく。 ・第2学年、「思考力・判断力・表現力」の力の向上を目標に、場面や状況に応じた表現ができるようなアクティビティを意識して取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング(帯活動) ・ペアワーク(スピーキング) ・ALTとのコミュニケーションテスト(学期に1～2回) ・「基本的な表現」の繰り返し練習(帯活動) ・場面や状況に応じたアクティビティ